

天田財団 ニュース

臨時号

2023 Summer

理事長就任インタビュー



助成事業と 普及啓発事業を 通じて社会貢献

公益財団法人としてのガバナンスの
さらなる強化を目指す

公益財団法人 天田財団
代表理事理事長

かつひで
伊藤 克英 氏

公益財団法人
天田財団
THE AMADA FOUNDATION

公益財団法人天田財団は、代表理事理事長を務めていた末岡慎弘氏が退任し、6月21日の理事会で伊藤克英氏（前・職業訓練法人アマダスクール理事長）が新代表理事理事長に就任することを決定した。

天田財団は1987年、(株)アマダの創業者である天田勇氏（当時のアマダ会長）により、「財団法人天田金属加工機械技術振興財団」として設立された。以来、金属等の塑性加工分野における機械や加工システム、技術に関する研究開発助成事業、ならびにその普及啓発事業を通じて、塑性加工機械に関する技術の向上をはかり、広く金属加工業界および経済の発展に寄与することを目的に活動してきた。

2007年からは、時代のニーズに合わせて研究開発助成の対象をレーザープロセッシング分野へと拡大し、2011年には公益認定を受け「公益財団法人天田財団」へと名称を変更した。財団設立から2022年度までの累計助成件数は2,108件で、累計助成総額は37億1,551万円となった。

2019年10月からは新たに国家検定である「技能検定（工場板金）」の受検手数料に対する助成を開始。その後、助成範囲を「金属プレス加工」「レーザー加工作業」へと拡大した。

天田財団は2027年に設立40周年をむかえる。7代目理事長に就任した伊藤克英代表理事理事長にこれからの財団運営について話を聞いた。

■設立者、天田勇の「思い」を継承する

——理事長就任の抱負についてお聞かせください。

伊藤克英代表理事理事長（以下、姓のみ） 私は㈱アマダでは技術開発に長年携わり、特にイタリアの現地法人では曲げロボットの開発に関わりました。帰国後は知財部門や開発部門の責任者としてファイバーレーザー技術の開発にも携わりました。そして監査役を経験し、コーポレートガバナンスやコンプライアンスを見てきました。その後は3年間、職業訓練法人アマダスクールの理事長を務めました。

アマダスクールも天田財団もアマダとは独立した組織ですが、発足の経緯や活動内容はよく似ています。アマダスクールは1978年、全国で初めての金属加工機械専門の職業訓練法人として発足しました。アマダの創業者である天田勇氏が多くの中小企業のお客さま工場をまわる中、お客さまがさまざまな課題を抱えていることに気が付きました。そして私財を寄付して、「お客さまとともに発展する」というアマダの企業理念に基づき、お客さまの従業員教育や事業承継者育成を行う教育訓練施設、神奈川県が認可した職業訓練法人として発足しました。

天田財団も1987年に天田氏が設立代表者、初代理事長となり私財を出捐し、アマダグループの寄付も基本財産に加え、金属加工の研究開発を支援する財団法人として発足しました。私は奇しくも天田氏の創立したアマダスクールと天田財団という2つの「思い」を継承することになりました。時代の変化に対応して、その「思い」をどのように実現し、次世代に継承すれば良いのか、責任の重さを感じます。

■時代の変化に対応した公益事業の目的を考える

——時代の変化に対応した事業としては、生産年齢人口



2023年4月に開催された「第6回天田財団レーザープロセッシング助成研究成果発表会」の様子

の減少や技能労働者不足という社会の変化に対応して助成事業の拡充が必要と考えますが、新理事長としてのお考えはありますか。

伊藤 塑性加工技術やレーザー加工技術も全体最適を考える中で、製造DXへの対応が求められています。最近ではChatGPTなど「生成AI」を活用してコンピュータが学習したデータを元に、新しいデータや情報をアウトプットする研究がさかんに行われています。これまで人間が行っていた「考える営み」をAIが実行し、アイデアやコンテンツを生み出すようになってきました。当然、塑性加工分野やレーザープロセッシング分野の研究においても「生成AI」を活用した研究が進んでいくと思います。そうした意味で、助成研究テーマを「生成AI」などの新しい分野に広げていくことも必要になってくると思います。

また、現在は助成金額の上限が1,000万円となっておりますが、もう少し高額な助成も検討する必要があると思います。さらに、若い研究者の育成を目的とした「若手研究者育成枠」を拡大し、助成件数や助成金額の上限を上げるなどの対応も検討しています。

すでにプロジェクトは終了しましたが、経済産業省が取り組んでいた、実現すれば産業や社会のあり方に大きな変革をもたらす「革新的研究開発推進プログラム」(ImPACT)のようなハイリスク・ハイインパクトな挑戦的研究開発などにも助成できる取り組みがあっても良いのではないかと、とも思っています。

4年後の2027年には財団設立40周年の節目をむかえます。それまでに理事の先生方のご意見もうかがって「40周年記念事業」も踏まえた公益目的事業の内容や方向性を検討していきたいと思っています。

■「40周年記念事業」で産学連携を加速させる取り組みを検討中

——末岡前理事長から2代続けて、アマダスクールの理事長経験者が天田財団の理事長に就任しました。助成研究の社会実装という点では、天田財団も後援しているアマダスクール主催のイベント「優秀板金製品技能フェア」への応募作品に、天田財団の助成を受けた研究の成果を応用したものがあっても良いのではないかと思います。大学・研究機関と企業との産学連携を積極的に行うといったお考えはありますか。

伊藤 これも「40周年記念事業」の一環になってくるかもしれませんが、これまで助成した研究の内容を、さまざまなキーワードで検索できるデータベースの構築を考えています。現在のシステムでは、研究者が設定したキーワードによる検索はできますが、具体的な研究内容、方法・手段、経過、成果、課題などといった細かな分類ができていないの

で、企業の知りたい情報——成果の実態や活用方法を見つづけるのが難しい状態でした。そこで、さまざまな切り口からスムーズにアクセスできるように、研究内容を詳細に分類したデータベースを構築することを考えています。

産学連携とは言いながら、中小企業にとって大学、研究機関は敷居が高く、連携するのが難しい現状があります。天田財団のWebサイトから企業が知りたい研究成果をキーワードから素早く簡単に検索できるようになると、利便性が高まり、企業の活用も増えると思います。そうすると社会実装への貢献が増えるはずで、これは「40周年記念事業」のひとつとしてぜひ実現させたいと思っています。

■「技能検定受検手数料助成」事業の拡充

——2019年10月より「金属等の加工業に従事される方の人材育成と技能向上に有益な資格の取得に対する助成による勤労意欲のある方への就労の支援」を公益目的事業に加え、国家検定である「技能検定(工場板金)」の受検手数料の助成を開始しています。その後「金属プレス加工」の技能検定受検にも助成範囲を拡大されました。今年度からはさらに「レーザー加工作業」への技能検定受検手数料助成も加わりましたね。

伊藤 「レーザー加工作業」は試験会場や検定委員の手配ができなかった地域もあって、今年度の受検者は少ないようです。しかし、来年度以降は受検者数もかなり増えてくると思います。

また、「工場板金」「金属プレス加工」も漸次増える傾向となっており、今後も申請者の増加を期待しています。初回で不合格となった場合でも3回までは助成を受けられるのでぜひ活用していただきたい。

■ガバナンス強化とコンプライアンス順守

——2020年12月に、内閣府から「公益法人のガバナンスの更なる強化等のために(最終とりまとめ)」が公表されました。理事長は監査役の経験をお持ちですが、財団のガバナンスについてどのようにお考えですか。

伊藤 公益財団に求められるガバナンスとは、「①法令順守に加え、適切な規範を定め明確にし、これに従うこと」「②法人の担い手全員が、役割を適切に果たしていると認められるように行動し、みずからの行動についての説明責任を果たすこと」「③不祥事の予防・発見・事後対応の仕組みが確立していること」——です。公益財団は公益認定を受けることにより、税制上の優遇措置の適用を受けることができ、「公益財団法人」という名称を独占的に使用することで、寄付などの社会的支援を受けやすくなります。したがって、公益財団にガバナンスが効いてこそ、国民は安心して寄付やその他の支援を法人に行うことができます。



アマダの監査役の経験を通して「監査役の仕事」についてしっかりと勉強をさせてもらいました。公益財団が「国民のための利益」を担う中心的な存在としてあり続けていくためにも、ガバナンス強化に加えて、コンプライアンス順守も徹底していきたいと考えています。

プロフィール

伊藤 克英 (いとう・かつひで)

1981年4月	株式会社アマダ技術サービス入社
1988年4月	株式会社アマダ 技術研究所
1990年9月	イタリア プリマ社出向
1993年9月	イタリア クレア社(アマダ100%出資のR&D会社) 代表取締役社長
2004年10月	株式会社アマダ 開発技術部門 部長
2007年4月	同社 技術管理部門 知的財産部 部長
2009年4月	同社 技術管理部門 統括部長
2010年6月	同社 板金ソリューション開発製造本部 執行役員 副本部長
2013年6月	同社 板金開発本部 取締役執行役員 本部長
2015年4月	株式会社アマダエンジニアリング 板金開発本部 取締役専務執行役員
2016年4月	株式会社アマダ 執行役員技術管理本部長 兼 株式会社アマダエンジニアリング 取締役専務執行役員
2017年6月	株式会社アマダ 常勤監査役
2020年5月	職業訓練法人アマダスクール 理事長
2023年6月	公益財団法人天田財団 代表理事理事長

天田財団の役員・評議員一覧

理事（10名）

役職	氏名	所属
理事長 ※	伊藤 克英	公益財団法人 天田財団
専務理事 ※	佐藤 雅志	公益財団法人 天田財団
理事	帯川 利之	東京大学 名誉教授
	北村 憲彦	名古屋工業大学 教授
	小部 春美	あいおいニッセイ同和損害保険 株式会社 顧問 株式会社 アマダ 社外取締役
	平等 拓範	理化学研究所 グループディレクター 分子科学研究所 特任教授
	柳本 潤	東京大学 教授
	山口 滋	東海大学 教授
	吉田 一也	東海大学 客員教授
	割澤 伸一	東京大学大学院 新領域創成科学研究科 教授

※は常勤

監事（2名）

役職	氏名	所属
幹事	石橋 和男	公認会計士 元・有限責任監査法人トーマツ 監事
	重田 孝哉	元・株式会社 アマダ 常勤監査役

評議員（10名）

役職	氏名	所属
評議員	青山 藤詞郎	慶應義塾大学 名誉教授
	石川 孝司	名古屋大学 名誉教授
	板谷 憲次	一般財団法人 素形材センター 代表理事副会長・専務理事
	片山 聖二	大阪大学 名誉教授
	阪部 周二	京都大学 名誉教授 京都大学 学際融合教育研究推進センター 特任教授
	篠塚 力	篠塚・野田法律事務所 弁護士 元・東京弁護士会 会長、元・日本弁護士連合会 副会長 日本大学 学外監事
	光石 衛	東京大学 名誉教授 独立行政法人 大学改革支援・学位授与機構 理事
	山内 和幸	株式会社 アマダ 常務執行役員
	吉田 総仁	広島大学 名誉教授
	渡辺 一弘	創価大学 教授

（五十音順）